

植物多様性センターの「チダケサシ」

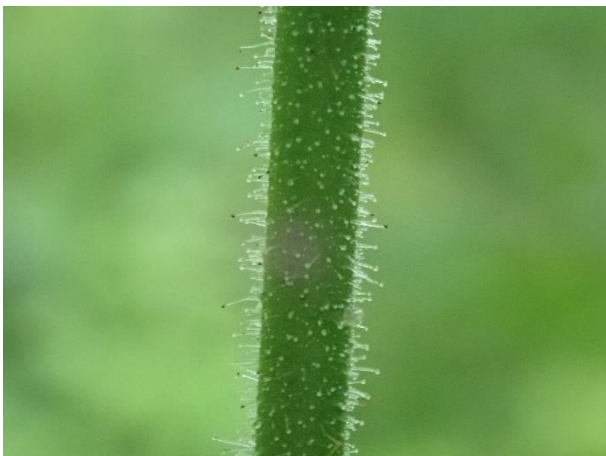
奥多摩ゾーンでチダケサシが開花しています。山野の湿ったところに生える多年生草本で、6-8月に高い花茎に薄紅色をした円錐形の花序を出します。チダケサシ(乳茸刺)の名前はチチタケ(乳茸)というブナ科の森林に生えるキノコを花茎に刺して持ち帰ったことから名付けられたそうです。野イチゴを刺して繋いだというイチゴツナギ(イネ科)に似た由来ですが、これらの植物を選んで刺す理由はあるのでしょうか。とても気になります。



花序は複総状で側枝が斜上する。



4mmほどの小さい花が密につく。



花軸には細かい腺毛が密生する。



葉は2-4回奇数羽状複葉で重鋸歯がある。